

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【文蔵小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。高学年における教科担任制が本格的に開始され、繰り返し学習させることで身に付く内容に時間をかけることが難しくなったためか、漢字を文の中で正しく使うことや主語と述語の関係、適切な敬語、辞書の利用などに課題が見られた。「言葉の特徴や使い方に関する事項」に重点的に取り組んでいきたい。
思考・判断・表現	R4年度の調査結果と比較すると、算数の「思考・判断・表現」に関わる領域に課題が見られた。他の領域に比べ、無回答率が高く、立式や説明に困難を感じている児童がいることがわかった。授業において、自力解決につながるような工夫や手立てを立てていく必要があり、今後の授業づくりへ生かしていくようにする。
主体的に学習に取り組む態度	同一集団経年比較で見ると、小4では国語においてR4年度より4.7ptも上昇していた。児童の思いを大切に学習計画を立て、取材等の活動を取り入れたり、目的意識をもって話し合いを行ったりしたことで、結果につながった。主体的な学習に取り組む態度の育成のために、学習のゴールの実現を児童と教師と一緒に進めていくという授業づくりを実践していく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語「知識・技能」に関わる領域において、R4年度の自校結果より0.5pt以上向上させる。	⇒ 基本的な授業の流れを全教職員に共通理解を図る。 ・基礎的・基本的な学習内容の定着を図るために、既習事項を振り返る時間を設定したり、掲示物等で児童が既習事項を振り返ることができる環境を作ったりする。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・算数「思考・判断・表現」に関わる領域において、R4年度の自校結果より0.5pt以上高める。	⇒ 児童の思考力、判断力、表現力を高めるために、毎時間の授業のめあてを明確にし、それに対して児童の言葉でまとめたり、振り返ったりする時間を設ける。
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査「国語(算数)の勉強は好きですか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合が市平均を上回るようにする。	⇒ 学習の過程や成果を振り返らせ、よりよく問題解決できたことを実感できる機会を設ける。 ・学びが生活の中でどのように生かされるのか実感できるような学習過程を構想する。

年度末(2月) 反映

全国学力・学習状況調査 <小6・中3> (4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査では、R4年度に課題が見られた国語の「知識・技能」において、0.1pt向上していた。(同一集団経年比較)	B
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査では、R4年度に課題が見られた「思考・判断・表現」において、平均正答率が1.3pt向上していた。(同一集団経年比較)	A
主体的に学習に取り組む態度	「国語(算数)」の勉強は好きですか。の質問項目において、肯定的な回答の割合を市平均と比較すると、国語は5.1pt下回っていたが、算数については3.6pt上回った。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	国語、算数ともに全国平均正答率を上回っており、おおむね良好な状況となった。しかし全国平均と本校の平均の差を前回調査と比較すると、国語は-3.1pt、算数は-1ptとなっている。特に、国語では送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うこと、算数では図形の意味や性質についての理解に課題が見られたことから、基礎的・基本的な内容の定着を図っていく必要がある。
思考・判断・表現	国語、算数ともに全国平均正答率を上回っており、おおむね良好な状況となった。一方で全国平均と本校の平均の差を前回調査と比較すると、国語は-0.4pt、算数は-6.1ptとなり、算数に課題があることがわかる。求め方と答え、見いだした違い等を式や言葉を用いて記述することが苦手の傾向があるので、自力解決への取り組み方や交流の場面において工夫していきたい。
主体的に学習に取り組む態度	児童質問紙の「国語(算数)の勉強は好きですか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合を前回調査と比較すると、国語は-21.7pt、算数は+5.4ptであった。「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」では肯定的な回答が92ptと高い一方で、国語が好きという回答が低いことから、学んだことを生活の中で生かせるような授業改善に努める。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考扱いとなります。			
小3	市の平均正答率と比較すると、国語は2.6pt下回り、算数は0.5pt上回っていた。また正当数分布表を見ると、国語、算数ともに2つの山になっており、特に国語においては学力の底上げが必要ながわかった。	小4	国語は4pt、算数は0.9ptともに市平均正答率を上回っており、おおむね良好な状況となった。また、R4年度小3のときの結果と比較しても、国語では1.5pt上昇していた。算数は、数と計算の領域に課題があることがわかった。
小5	市の平均正答率と比べると、国語+5.8pt、算数+3pt、理科-0.3pt、社会+2.8ptとなっており、おおむね良好な状況となった。理科では、結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、考えることに課題があることがわかった。	小6	国語0.6pt、算数3.3pt、理科0.2pt、社会2.6ptと全て、市の平均正答率を上回っていた。おおむね良好な状況と言えるが、正当数分布表に表してみると、どの教科も学力の二極化が見られ、個に応じた指導が求められることがわかる。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし